

4強進出の立役者が東京オリンピックを語る!

谷 晃 生

Kosei Tani

高[茨木]67期

(在籍期間 2016年4月～2017年3月)



谷晃生さんは追手門学院高校67期で、湘南ベルマーレでゴールキーパーとしてご活躍です。この夏に開催された東京オリンピックでは全試合にフル出場。中でも準々決勝のニュージーランド戦では、勝負のかかったPK戦で好セーブ、好反応を連発し、ベスト4進出の最大の立役者となりました。現在はフル代表にも選出され、将来を嘱望されています。

今回は、海外遠征を伴うワールドカップ予選の合間を縫って、山桜会のために貴重な時間を割いてくださいました。

オリンピックを終えて、今のお気持ちは?

今までのサッカーキャリアや人生を懸けて戦えた大会だったと思います。でもオリンピックを経験して、まだまだ自分としても日本代表としても課題が見つかったと思います。そこを乗り越えて目標とするところにたどり着くために、「いい通過点だった」と言えるような大会にこれからしていきたいという気持ちです。

準々決勝のPK戦は、日本国中が固唾をのんで見守り、興奮しました。あのとき、何を考えてゴールを守っていましたか。

何も考えていなかったです。本当に「勝ちたい」という気持ちだけでした。

緊張と落ち着きの両方がありましたが、もともとそこまで入り込むタイプではないので、いつも通りという感じでした。PKのシーンだけでなく、大会を通して、いつも通りプレーすることが一番大切だと思っていました。自分の実力以上のものを出してやろうとは思わず、いつも湘南ベルマーレで出しているプレーを出すことを意識していました。



オリンピックが終わり、フル代表にも選ばれています。海外移籍やワールドカップなど、今の具体的な夢や目標を聞かせてください。

まずは日本代表に入り続けること。そしてその中で競争に勝って、試合に出ることがひとつの目標だと思います。そしてその先にワールドカップ出場があれば一番いいと思っています。

追手門学院での思い出は?

高校2年からはガンバのトップチームでトレーニングをすることになり通信の高校に転校をしたので、高校1年の10カ月間くらいしか通うことができませんでした。その間もアンダーカテゴリーの日本代表

の遠征などもあって不在にしがちで、学校生活を思い切り楽しんだり、文化祭や体育祭といったイベントに参加できなかったことは残念でした。懐かしいなあと思うのは食堂です。いつもカツ丼やカレーうどんをよく食べていました。

高校から親元を離れてガンバの寮に入っていたので、いつもガンバのユースの選手たちと自転車で登校し、学校が終わるとまた自転車でグラウンドまで向かっていたのも思い出です。

追手門学院に通っている小学生や中高生たち、後輩に向けて、何かメッセージやアドバイスをお願いいたします。

夢や目標を持って、何事も楽しんでチャレンジしてください。苦しいことや挫折を味わうこともあると思いますが、それが次の成功や成長に繋がると思うので、苦しいこともポジティブに捉えて頑張ってください。

